

くらしの泉

人が生きていくためには、必ず水が必要だ。赤ちゃんなら体重の8割は水、成人でも6割が水である。つまり人の営みと水は密接な関係がある。朝起きて顔を洗う、水洗トイレを使う、朝食にコーヒード、その食器を洗う、すべて水を使う。使う時間と水量により、個人はもとより家族構成も判明する。たとえば平日は朝8時まで、夜は午後7時以降に水道メーターが回ると、この人は朝9時から午後6時頃まで外で働いている人で、このパターンが毎日繰り返されると、この人は事務系の会社員か公務員かなと想像できる。逆に昼でも水道メーターが回っていると、この人は家族持ちで、妻が洗濯していると思われる。さらに独身男性なのに金曜日の夜になると水道メーターがグルグルと回りだすと、彼女が来てシャワーを使っているのではないかと想像できるのだ。

警察にとっても水道メーターの動きは貴重な情報収集源だ。毎月決まった曜日に、高級マンションの下に高級外車が集合し、黒服の人間が入り込んでいる。ある部屋の水道メーターが異常に回り始め、半チャンが終わる頃、一斉に警察官が踏み込むのだ。賭博は現行犯逮捕が基本だ。このように水道メーターは、その人の生活パターンを正確に反映している。もちろん独居高齢者が生きているのかどうか、水の使用でわかる。さらに下水（し尿）の情報を加味すると、完璧に個人情報が入り込めるのだ。最新の水質分析機器では、

抗がん剤、鎮静剤、麻薬、女性ホルモンなど微量成分を完璧に判定できる。その家の下水を採取すれば、どんなクスリを服用しているのか健康状態がわかる。女性ホルモン（エストロゲンなど）分析で年齢層や人数も推測できる。個人宅の下水採取は捜査令状が必要だが、公道に敷設されている下水道マンホールからの採取は可能である。

こんな逸話がある。イタリアの科学者が同国北部を流れているポー川を調査したところ、毎日4kgのコカインに相当する代謝物が流れていることが判明した。コカインの残留成分を含んだ尿が、下水を通じてポー川に流れ込んでいたからである。代謝物から元のコカイン量を逆算すると、その年間使用量は1500kg相当、末端価格にして160億円相当になると予想され、大規模なコカイン汚染の実態が明らかになった。

さらに大きな調査がある。2014年、スイスが主導し欧州各国の政府機関、薬物対策団体、大学や研究所が参加、欧州主要42都市の下水に含まれる各種の麻薬成分を分析した。麻薬汚染度の順位ではアムステルダムはコカインで首位、乾燥大麻やエクスタシーでは2位、大麻はセルビアのノビイ・サドが首位、バリは3位であった。覚せい剤の検出はチェコ、スロバキア、ドイツで高く、トップはチェコの首都プラハであった。このように水は、個人情報のみならず社会の動きを正確に示す最大の情報源なのだ。

水に流せない 水の話 ① 吉村和就

水は情報の宝庫である

今月からは、「水」をテーマにした連載です
1回目は、下水を調べれば
個人情報が出てしまうというコワイお話。

よしむら かずなり・グローバルウォータージャパン代表、
国連環境アドバイザー。日本を代表する水の専門家之一。
『水ビジネス——110兆円水市場の攻防』(角川書店)など著書多数。

